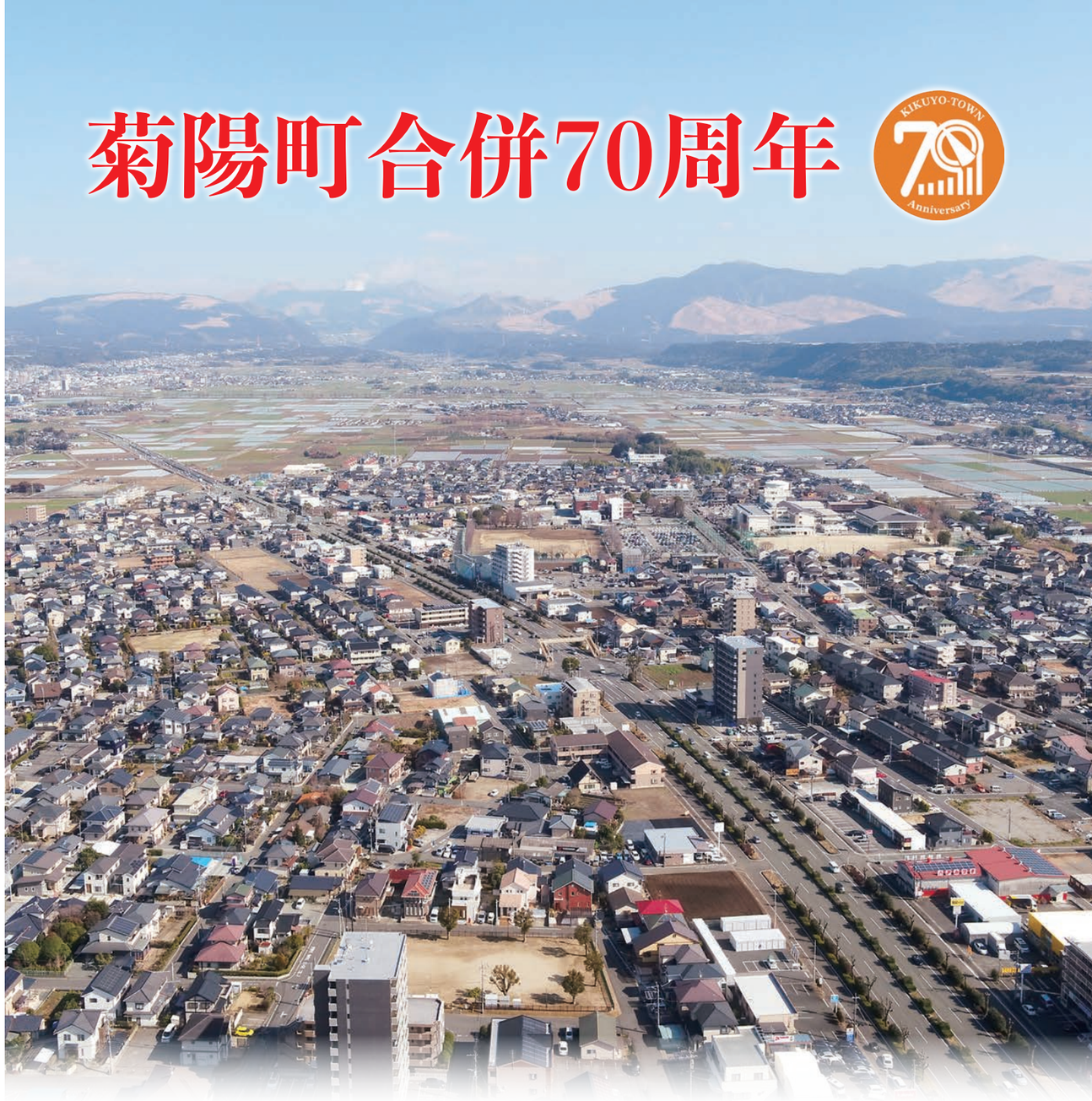
菊陽町合併70周年



昭和30年に3村が合併し「菊陽村」が誕生してから今年で70周年を迎えます。

菊陽村の誕生から町制施行へ

今から70年前の昭和30年4月に津田村、原水村、白水村の3村が合併し、人口12,115人、世帯数2,069世帯の「菊陽村」が誕生しました。

村名の由来は、村が菊池郡の南方に位置し、陽光さんとして輝き、前途の希望は洋々たるものがあるという意味を込め、永遠の発展を願って付けられています。

その後、昭和39年に新産業都市の指定を受け、工業化が進んだことで、村の産業・交通が促進されました。このような流れを受け、農業と工業の両立や、住民生活の向上のため、昭和44年1月1日に町制へと移行しました。

町制施行後の成長

町制施行後は、熊本都市計画区域に編入されたことで、急速に発展しました。当時、県下最大級と言われた「県営武蔵ヶ丘団地」が建設され、多くの人たちが移り住み、町の様子は大きく変わっていきました。

このような変化の中、町は、幹線道路や公共下水道の整備などを進めるとともに、企業誘致にも積極的に取り組み、菊陽バイパス沿いの区画整理事業や、光の森地区の住宅開発が進んだことで、平成27年4月には人口が4万人を超えるまでに成長しました。

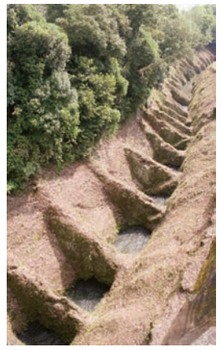
平成28年熊本地震後は、光の森防災広場をはじめ、防災センター、総合体育館を整備し、防災力の強化を図り、「成長しつづける町。」を目指したまちづくりを進めています。

長年受け継がれてきた文化

町の様子は日々変化しつづけている一方、変わらないものもあります。

町の文化財の一つに「馬場楠井手の鼻ぐり」があります。これは加藤清正公が治水のために築造されたと伝えられ、馬場楠の白川取水口から熊本市まで約12・4キロメートルの農業用水路です。水力を利用してたまった土砂を排出させる仕組みとなっており、この穴の形が牛の鼻輪(はなわ)を通す穴(または鼻輪本体)に似ていることが「鼻ぐり」という名称の由来とされています。

平成30年には馬場楠井手の鼻ぐりを含めた白川流域かんがい用水群が世界かんがい施設遺産に登録、平成31年には熊本県史跡に指定されました。



馬場楠井手の鼻ぐり

他にも加藤清正公が屋久島から取り寄せた杉を植えたとされる豊後街道は「日本の道100選」に選ばれ、熊本藩が参勤交代をする際に大きな歴史的役割を果たし、また九州を横断する街道として多くの人々にとって重要な役割を果たしました。

他にも、本町には素晴らしい文化財が残されており、従来からある町の良さとして大切にしています。

合併70周年を記念して

菊陽村の誕生から70年が経過し、人口が増え、商業施設も多く立ち並び、町の様子は大きく変化しました。しかし、町は、従来からある歴史や文化を大切にし、バランスが取れた豊かなまちづくりを進めます。

また、10月4日(土)には、来賓などを招いて合併70周年記念式典を開催します。

成長しつづける町。を祝って

問 総合政策課　企画政策係　☎096(232)2112

本町では、菊陽町合併70周年を祝い、これからも本町がさらに発展し、成長しつづけるよう祈念して、記念式典を始め、多くのイベントを予定しています。

詳しくは右記ＱＲコードをご覧ください。

詳しくはこちら

予定している70周年記念イベント

9月6日(土)	火の国サラマンダース町民招待 DAY
9月19日(金)	金婚夫婦表彰式典
10月4日(土)	菊陽町合併70周年記念式典(関係者のみ)
11月8日(土)	菊陽町すぎなみフェスタ2025
12月6日(土)	70周年記念令和７年冬巡業　大相撲菊陽場所